

健 対 協

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会胃がん部会 鳥取県健康対策協議会胃がん対策専門委員会

- 日 時 令和7年2月8日(土) 午後2時～午後3時40分
- 場 所 ハイブリッド会議 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
- 出席者 20人
〈鳥取県健康会館〉
岡田委員長、瀬川・秋藤・田中・三宅各委員
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：角田課長、上田課長補佐
健対協事務局：岡本事務局長、岩垣次長、井上・廣瀬両主事
〈オンライン〉
磯本部会長、門脇・川本・小酒・野口・福田・藤原・八島・吉田各委員
健対協事務局：田中係長

【概要】

・令和5年度の受診率は26.0%で前年度に比べ0.2ポイント減少した。胃がん検診における内視鏡検査の実施割合は84.9%で、年々増加している。

X線検査の集団検診の要精検率7.2%（東部7.0%、中部8.5%、西部6.4%）、医療機関検診は7.7%（東部7.8%、中部18.8%、西部6.7%）であった。

・令和5年度胃がん検診発見がん患者確定調

査最終結果報告があった。確定胃癌は149例（一次検査がX線検査：専検診11例、一次検査が内視鏡検査：138例）で、前年度に比べ、16例減少した。癌発見率は0.320%（東部0.308%、中部0.401%、西部0.294%）であった。

- ・ピロリ検査結果の実績について、北栄町、日吉津村、大山町、伯耆町、日野町、南部町で実施された結果が報告された。
- ・市町村胃がん検診実施体制を変更することによる課題、影響について、対象者の年齢や受診間隔、リスク層別化検査の導入、精度管理、住民周知などが挙げられた。

挨拶（要旨）

〈磯本部長〉

本日は天候の影響で、急遽、ハイブリッド開催となったが、効率よく進めていきたい。皆様には活発に討論をしていただきたい。本日はよろしく願います。

〈岡田委員長〉

急遽開催方法を変更し、ご迷惑をおかけした。胃がん検診実施に係る手引きの一部改正も議題にあり、活発な意見をお願いする。2020年のがん罹患データも出てきており、それについても検討していきたい。本日はよろしく願います。

報告事項

1. 令和5年度胃がん検診実績報告並びに令和6年度実績見込み及び令和7年度計画について 〈県健康政策課調べ〉：

上田県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

〔令和5年度実績最終報告〕

対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）181,414人のうち、受診者数はX線検査7,156人、内視鏡検査は40,086人で合計47,242人、

受診率26.0%で前年度に比べ0.2ポイント減少した。受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は84.9%で、年々増加している。

このうち、40歳から69歳（国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法）では、対象者数63,987人、受診者数21,168人、受診率33.1%であった。

X線検査の要精検者数は518人、要精検率7.2%で、前年度より0.6ポイント増加した。精検受診者数430人、精検受診率は83.0%で前年度より1.1ポイント減少した。集団検診の要精検率7.2%（東部7.0%、中部8.5%、西部6.4%）、医療機関検診は7.7%（東部7.8%、中部18.8%、西部6.7%）であった。

内視鏡検査の組織診実施者数は1,184人、組織診実施率は3.0%であった。

検査の結果、胃がん146人（X線検査10人、内視鏡検査136人）、がん発見率（がん／受診者数）は、0.31%（X線検査0.14%、内視鏡検査0.34%）で、前年度に比べ、胃がん15人、がん発見率は0.03ポイント減であった。胃がん疑いは48人（X線検査1人、内視鏡検査47人）であった。

陽性反応適中度（がん／要精検者）はX線検査1.9%で、東部2.4%、中部0.7%、西部2.3%である。また、内視鏡検査の陽性反応適中度はがんを組織診実施者数で割った率で求めたところ11.5%で、東部9.5%、中部11.7%、西部14.3%であった。

プロセス指標新基準（上限74歳）に基づく令和5年度実績の評価では、上限74歳の新基準値のうち要精検率が達成しており、精検受診率、がん発見率、陽性反応的中度については未達成であった。当面参考として併記することとした上限69歳についても同様であった。

〔令和6年度実績見込み及び令和7年度計画〕

令和6年度実績見込みは、対象者数181,414人に対し、受診者数は48,964人、受診率27.0%の見込みである。また、令和7年度実施計画は、受診者数49,792人、受診率27.4%である。

〈鳥取県保健事業団調べ〉：三宅委員

〔住民検診〕

令和5年度の受診者数6,305人で令和4年度に比べ370人の減少である。

そのうち、要精検者456人、要精検率7.2%（東部7.2%、中部8.4%、西部6.3%）で、判定4と5の割合は3.7%（東部4.7%、中部2.2%、西部3.7%）であった。

要精検者数に対するがん発見率は2.4%（東部3.3%、中部0.7%、西部2.8%）であった。

受診勧奨は市町村より行われているが、精検結果未報告は15.9%であった。がん発見率は0.17%であった。

初回受診者は812人で、要精検者は58人、要精検率は7.1%であった。判定4と5の割合は5.2%で、要精検者数に対するがん発見率は1.7%であった。

〔一般事業所検診〕

受診者15,890人のうち、要精検者は818人、要精検率は5.1%、判定4と5の割合は8.1%で、要精検者数に対するがん発見率は0.9%であった。精検結果未報告については、再度紹介状を出して受診勧奨を行っているが、未報告率は37.2%と依然として高い。がん発見率は0.04%である。

2. 令和5年度胃がん検診発見がん患者確定調査結果について：田中委員

確定胃癌は149例（一次検査がX線検査：車検診11例、一次検査が内視鏡検査：138例）で、前年度に比べ、16例減少した。

癌発見率は0.320%（東部0.308%、中部0.401%、西部0.294%）であった。

調査結果は以下のとおりである。

- （1）早期癌は126例、進行癌は23例であった。早期癌率は84.6%（東部86.4%、中部82.9%、西部83.6%）であった。
- （2）切除は19例、内視鏡切除が119例。例年の集計では半数を内視鏡切除が占めていたが、令和5年度においては約86%を占めた。非切除例が11例であった。

（3）性・年齢別では、男性112例、女性37例であった。40歳代2例、50歳代1例、60歳代30例、70歳代81例、80歳以上35例で、70歳代の男性が多い。

（4）早期癌では「Ⅱc」が63%を占めている。進行癌の肉眼分類は「2」が35%を占めている。例年通りの傾向であった。

（5）切除例の大きさは2cm以下のものが61%を占め、前年度の54%に比べ、小さい癌が見つまっている。一方で5cm以上のものが14例認められた。

（6）肉眼での進行度は、X線検査ではstageⅠAが9例で90.00%、内視鏡検査ではstageⅠAが105例で85.37%であった。StageⅣが内視鏡検査で1例見つまっている。

（7）逐年検診発見進行癌は7例（東部3例、中部2例、西部2例）であった。各地区で症例検討を行っていただき、問題点等について検討していただく。

3. ピロリ菌検査の実績について：川本委員

【北栄町（平成27年度から実施）】

○対象者：北栄町在住の中学3年生

方 法：尿中ピロリ菌抗体検査によるスクリーニング検査及び同検査陽性者に対する尿素呼気試験による感染確認の実施。ピロリ菌感染が確認された者のうち除菌を希望する者には除菌治療を実施する。

○令和6年度実績：受診者数107人、陽性者3人、確認検査0人

令和5年度実績は以下の通り報告があった。

【市町村と連携して行う胃がん対策事業について（令和2年度から実施）】

○対策型検診に伴ったリスク層別化検査

実施主体：市町村

対 象 者：当該市町村に居住する者

40歳～65歳（70歳）

検査方法：リスク層別化検査（胃がん検診と併せて実施する場合に限る）

○若年層に対する胃がん予防対策

実施主体：市町村

対象者：当該市町村に居住する者

20歳～39歳

検査方法：リスク層別化検査等、その他鳥取県健康対策協議会が認める方法

実績：4町村が実施

受診者数137人、内視鏡検査受診者

35人、除菌治療（予定）者15人

○便中ピロリ菌抗原検査

実施主体：市町村

対象者：当該市町村に居住する者

30歳～39歳

検査方法：便中ピロリ菌抗原検査

実績：南部町が実施

受診者数28人、陽性者3人

昨年度の部会で、Hp抗体価の陽性者の値を10U/ml以上にとすることとされたため、実施要綱の改正と様式の一部変更についても報告された。

4. その他

(1) 75歳未満がん年齢調整死亡率等について：

上田県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

国立がん研究センターが令和5年の75歳未満がん年齢調整死亡率を公表した。

鳥取県の死亡率は、男女計62.9（全国17位）、男性81.4（全国29位）、女性45.6（全国3位）で、昨年の73.7より減少し、県第3次がん対策推進計画（H30～R5）の目標値を達成した。また、胃がんの死亡率は男女計5.4（全国13位）、男性7.8（全国15位）、女性3.1（全国19位）であった。

(2) 県の来年度当初予算について：

上田県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

がん対策推進事業の令和7年度予算案について報告された。がん対策事業については、ほぼ同規模で実施予定である。がん予防、がん医療の充実、がんとの共生を3本柱とし、引き続き総合的ながん対策を推進していく予定である。

(3) 胃がん検診実施に係る手引きの一部改正について：川本委員

胃がん検診実施に係る手引きについては、夏部会の協議を踏まえて、検診結果通知書等の改正を行い、令和7年度より適用することを関係先に通知したと報告があった。

八島委員より、様式例2「胃がん検診結果通知書」について下記のとおり意見が出され、市町村にも確認し、来年の夏部会で検討することとなった。

1. 異常なし これからも年1回は検診を受けられますようお勧めします。

↓

1. 異常なし これからも定期的に検診を受けられますようお勧めします。

協議事項

1. 今後の市町村胃がん検診実施体制変更への対応等について

県健康政策課より実施体制を変更することによる課題、影響について、対象者の年齢や受診間隔、リスク層別化検査の導入、精度管理、住民周知などが挙げられた。今後のスケジュールとして、令和9年度に改正後の施行開始に向けて、令和7年度の夏部会に手引きの改正案を承認、令和8年度に市町村においては、システム改修、住民周知が予定として提案された。今後、夏部会に向けて、メールでの審議や修正を重ねていくことが決定された。また、リスク層別化検査については、これまでの協議において精度管理に加えることを検討しているが、県事業の評価ができていないことなどを踏まえ、今後の協議により導入時期や実施方法等をさらに検討することとなった。住民周知については、伝え方等に懸念が提起され、現時点では年1回の検診を推奨しつつ、慎重に対応することが確認された。

2. その他

(1) 令和7年度胃がん検診従事者講習会及び症例研究会について

岡田委員長より、在り方委員会での従事者講習会の開催方法の議論について報告された。他県で

の胃がん・大腸がん合同講習会や開催時期について説明され、今後検討していくことが確認された。また、令和7年度は東部地区での開催が決定した。

胃がん検診従事者講習会及び症例研究会

日 時 令和7年2月8日(土)

午後4時～午後6時

場 所 ハイブリッド開催（現地参加＋オンライン参加）

① 現地参加会場：

鳥取県健康会館（鳥取県医師会館）鳥取市戎町
倉吉交流プラザ 倉吉市駄経寺町

② オンライン参加（Zoomミーティング）

ハイブリッド開催とし、現地会場とWeb会議システム「Zoom」を使用し、ライブ配信をした。

出席者 180名（医師：175名、保健師他：5名）
（鳥取県健康会館：12名 倉吉交流プラザ：10名、オンライン参加：158名）

岡田克夫先生の司会により進行。

講 演

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会胃がん部会長 磯本 一先生の座長により、東京女子医科大学病院 消化器内視鏡科 教授 野中康一先生による「胃がん検診の④テクニック～ピロリ未感染時代の注意点～」の講演があった。

症例検討

胃がん対策専門委員会委員長 岡田克夫先生の進行により、3地区から症例を報告していただき、検討を行った。

1) 東部症例（1例）：鳥取生協病院

宮崎慎一先生

2) 中部症例（1例）：鳥取県立厚生病院

岡本 尚先生

3) 西部症例（1例）：米子医療センター

原田賢一先生